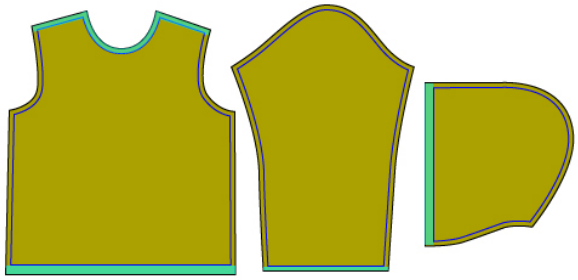
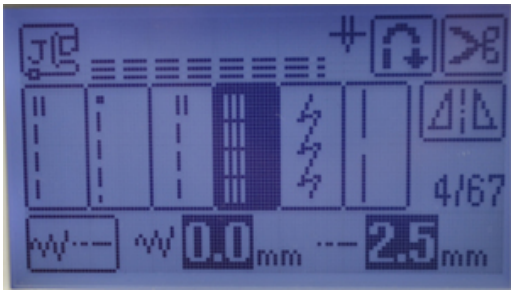
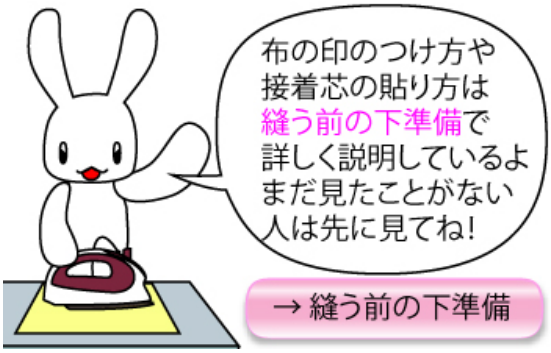
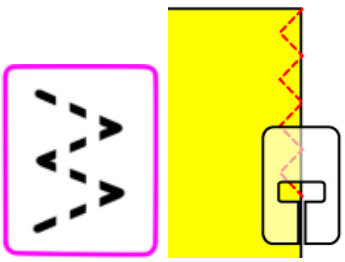
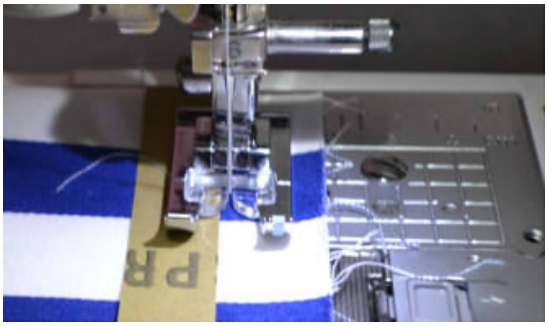
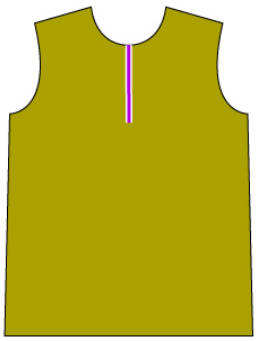
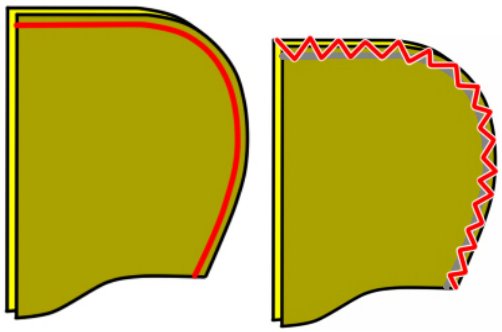
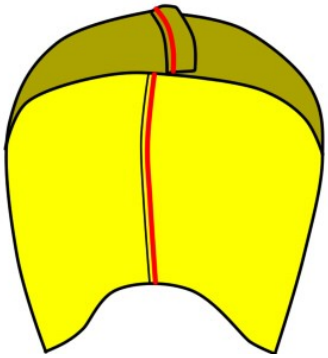
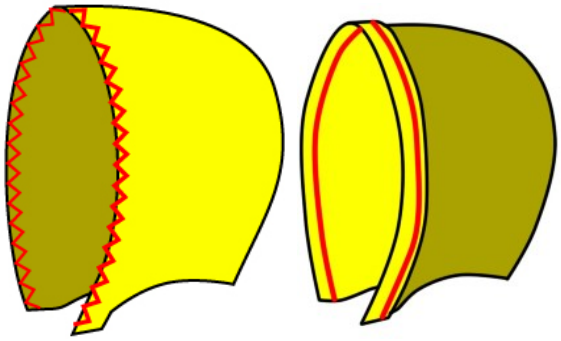
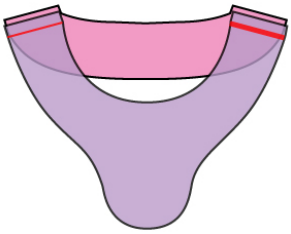
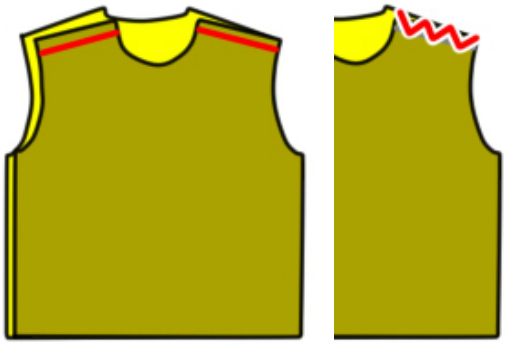
パーカーの縫い方

	縫うだけで伸びる生地や出来るだけ型くずれを防ぎたい場合は切った後水色の所に補足切った接着芯か伸び止めテープを貼ってください。 ■表　■裏
	よく伸びるニットの縫い方 普通の縫い方だと糸が切れるので ニット用のレジロン糸を購入してください 図のような三本線の柄を選択上糸の調子を強めにして縫ってください これだとかなりの伸縮でも耐えます。 あまり伸びないTシャツ生地だと右隣の雷状の伸縮縫いという機能が使えればこちらを使うといいですよ。
	くわしくは縫う前の下準備を参照 針も必ずニット針に変えてください。 ニットを普通の針で縫うと洗濯したときに縫い目が大きく開いて裂けやすくなります。
	ニットのほつれ止めは左のように点線のジグザグを使います。 ニットは縫い合わせた後に、縫い合わせた生地を一緒にほつれ止めします。 糸は伸縮に耐えるようニット糸を使ってください 一番右側に針が来るときに、布からはみ出すように縫うと縁を包み込んでよりほつれにくくなります

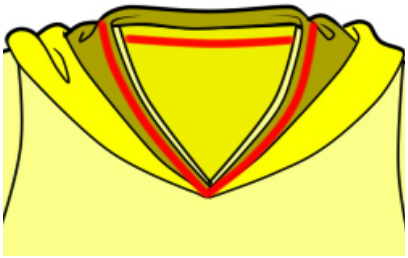
	ニットは縫っているとどんどん伸びたりずれたりして長さが合わなくなったり、べろべろに伸びたりします。 そこで細かい番手の紙やすりを帯状に切って、布と押えの間にはさむと、伸びやズレが減ります。 紙でも一応代用がききますが紙やすりのほうがずれにくいです。 ※紙を一緒に縫わないように注意。
	胸元のあきの部分の印を忘れずに印を写してください。
	 2枚のフードの生地を内側が表になるように重ねてください。 1cm幅で縫ってください。 ほつれ止めをしてください
	縫い代をどちらか片方に折ってください。 縫い目から2～5mmの所を表側から縫って、縫い代を固定してください。
	 顔が出る所の縫い代をほつれ止めしてください。 縫い代を2cm裏側にアイロンで折ってください。 1.5cmのところを縫ってください。

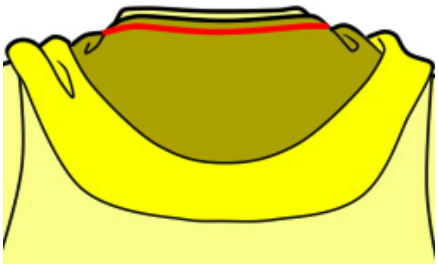


前と後の見返しを表同士が内側になるように重ねてください。
肩を1cm幅で縫ってください。

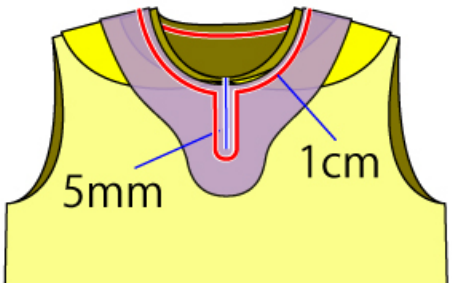


前後の身頃（胴体）を表同士が内側になるように重ねてください
1cm幅で縫ってください。
肩を2枚一緒にほつれ止めしてください

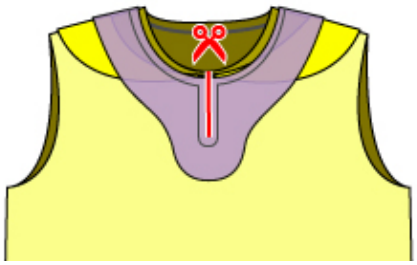




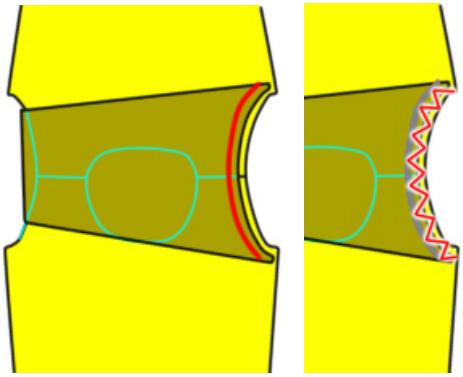
身頃（胴体）とフードを表側同士が内側になるように重ねてください。
5mmのところを縫ってください。



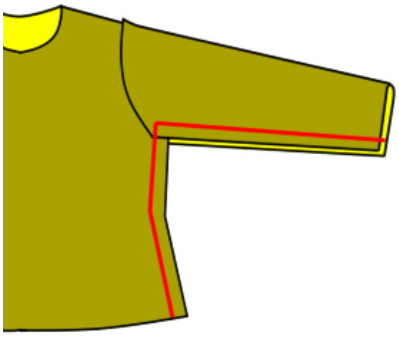
身頃と見返しを表側同士が内側になるように重ねてください。
首周りは1cm幅で縫ってください。
前の開きの印の所は5mm幅で縫ってください。

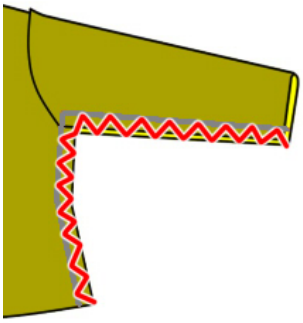


糸を切らないように縫った間を1mm手前まで切ってください。



身頃を表が上になるように開く
身頃のそでのカーブにそでを表同士が内側になるように重ねてください。
端から1cmのところを縫ってください。
ほつれ止めをしてください。





そでから脇の下までを端から1cm幅で縫ってください。
縫った所をほつれ止めしてください。

すそとそでロを2cmアイロンで内側へ折ってください。
縫い代の端をまたぐようにジグザグ縫いで縫ってください。

- □ 表生地
- □ リブニット（手首とすそ）
- □ 生地にあった色のレジロン糸（ニット用の糸）
- □ あまりにも伸びる生地の場合伸び止めテープか接着芯
- □ ニット針　普通の針でニットを縫うと洗濯した時に穴が大きく開いて弱くなります

お勧めの生地

・ジャージー生地

トレーナーなどに良く使われている厚地のニット生地

・リブニット ←ココの部分の生地です。

よく伸びるので手首にフィットして冷たい空気が入りにくくなります。
全部リブニットで作るのも可です

・レジロンミシン糸　ニット生地は必ずレジロン（ニット）糸を使ってください。
使わないと糸が切れます